

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援・放課後等デイサービス LUMO HAT神戸校		
○保護者評価実施期間	2026年 2月 7日		2026年 2月 17日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	73	(回答者数) 23
○従業者評価実施期間	2026年 2月 7日		2026年 2月 17日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)		(回答者数) 6
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 2月 17日		

○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	楽しく体を動かすことができる	活動の難易度を調整し「少しがんばればできる」レベルに設定することで無理なく挑戦できる環境を整えている。チャレンジすることや成功体験を積むことで自信に繋がれるように取り組んでいる。	運動メニューを固定化しないように工夫し、常に新鮮さを持って取り組める内容を取り入れていく。またスタッフ間で協議しながらより良い内容にしていく。
2	運動の種類や内容に変化を持たせた運動メニューを提供している	一つの運動道具に対して、同じ動きに限定しないでさまざまな動作を取り入れた運動メニューを提供している。動きの幅を広げることで身体の使い方への理解を深め、楽しみながら運動能力の向上につなげられるように取り組んでいる。	児童一人ひとりの発達段階や特性に応じて内容や難易度を調整し、より充実した運動活動となるように工夫していく。
3	年齢の異なる児童同士との関わりを通して社会性を育む機会を設けている	ペアワーク運動なども取り入れ、同年代の児童だけでなく年齢の異なる児童同士が関わる機会も作っている。児童同士での関わり方によって、協力する経験、相手を意識した関わり方、思いやりに関わるように運動メニューを考えている。	「(同年代を)サポートする」「(同年代から)支えてもらう」「協力する」「教える」「手伝う」の経験から安心感や自信につながり、また言葉で相手に伝える力が向上できるように支援していく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	事業所が狭く、空間的制約がある	運動や集団活動の動線が限られてしまう。人数が多いと密集になりやすく落ち着きにくい。	大きな移動を伴わない運動や、その場でできる多様な動きをとり入れていく。静と動を組み合わせる活動の切り替えにメリハリをつけていく。
2	人員配置に関する課題(送迎と事業所内支援を同時に行う必要があり、人員配置の調整が必要)	児童の安全を確保するため、送迎時、事業所内のどちらにも一定の人員配置が必要。	送迎時には、事前に児童の特性や注意点を共有し安全確認を徹底していく。状況に応じて、送迎ルートや順序の見直しを行い、負担軽減を図る。
3	利用時の様子をより分かりやすく共有できるよう改善が必要	当事業所では保護者の見学等行っていない為、口頭でのフィードバックを中心としており活動中の様子を視覚的に伝える機会が十分ではない	療育内容や児童の様子などを目に見える形で伝えられるよう、動画や写真など保護者に分かりやすいかたちでお伝えしていく。